





グローバルな環境下でグループワークを行ったことによって、自分の意見を積極的に発信することと相手の意見を受け止めることの重要性を再確認することができました

システム理工学部 電子情報システム学科2年
山崎 拓真さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： ベトナム・ドンア大学

学部の特性上、グループワークの経験をする事は多かったのですが、専門性の高いものに関しては体験したことがありませんでした。グローバル化が進んだ社会で働くことを考えた結果、本gPBLに参加することを決めました。gPBLにはベトナムの学生だけでなくタイからも学生が参加するため複数の文化を知ることができる、電子情報システム学科と情報工学科の合同gPBLであるため自分の知識を活かすことができる、この二つが主な理由です。

参加前は海外に渡航したことがなかったため、正直不安しかありませんでした。何か忘れていたらどうしようというありふれた不安から犯罪に巻き込まれたらどうすれば…という不安まで。しかし、いざ始まってしまえば考えていた不安要素を思い出すことはありませんでした。なぜならば、朝10時に学校に到着してから17時にホテルへ出発するまでの限られた時間で作業を進めなければいけないため、不安について考える時間的余裕がなかったのです。それに、わからないことがあれば現地の学生に尋ねれば良いだけの話でした。

このgPBLでは、電子情報システム学科の授業を二年間受けているだけでは触れることのない機材を貸出して頂けるため、自分たちの実現したいサービスや作品をセンサーやRaspberry Pi等を用いて実現していくという、まさにプロジェクトベースでの学習をすることができます。授業のように教員が一から教えてくれるようなことはありません。わからないことがあるならば自分で調べる、それでもわからなければTAに相談をする、そのような日々がこのgPBLでは続きます。一つ課題がクリアできたらまた新しい課題が出てきたため毎日大変でしたが、自分たちの目標を実現させようとする時間は本当に楽しく、有意義だったと振り返ってみて感じます。

もし留学に対して不安を抱えている人がいるならば、そのような人こそぜひ留学をしてみたいかがでしょうか。事前に抱えていた不安など吹き飛ばしてしまうほどの忙しさと満足感、経験値が渡航先であなただを待っているはずですよ。



言語や文化、専門分野などが違っていても一緒に協力しあいながら活動することができました。

システム工学部 電子情報システム学科 2年 平田和也さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先：ベトナム・ドンア大学

私は、1年生の時に語学留学、2年生の夏時にIEPを経験し、今回のgPBLが3回目のベトナムになりました。IEPの時には1週間だけArduinoを用いてベトナム人の学生と共同作業を行いました。本格的に共同作業したのは今回が初めてでした。gPBL自体は2年生の夏に1度、韓国の大学と大宮校舎で計7日間共同作業を行い、その時には椅子に座っている人数を検知し、空いている席の数を通知するシステムを開発しました。しかしまだ2年の夏でArduinoやPythonなど知らないことが多くあったり、期末試験の日と活動日が重なっていたことなどから、なかなか班に貢献することができませんでした。なので、今回はその時の経験を踏まえて、今まで培ってきたことを十分に生かしてチームに貢献できるように臨みました。私たちは芝浦の学生2人とベトナムのドンア大学の学生1人の計3人の班でした。英語を使う機会は多いほうだったとは言えませんでした。ベトナム人の子とシステム開発について意見しあいながら、プログラムを担当する人、回路を設計する人などに分かれ、自分の役割をしっかりと全うしながら、チームで協力しあって活動していくことができました。私たちの班が考えたシステムは、部屋の気温と湿度を計測し、その情報をAndroidStudioを用いてスマホに表示させ、さらに人感センサが人を検知したら扇風機に見立てたモータの向く方向を変えるというものでした。ベトナム人の子がAndroidの設計を担当し、私ともう一人情報工学科の学生はArduinoの回路とプログラムを設計しました。設計しているものはAndroidとArduinoとで異なるものでしたが、今回のプログラムはネットワーク通信を用いたシステムの開発であったので、Arduinoで検知した値をどのようにAndroidに送信するのかなど、やることは違って相互に意見を交わしあいながら設計に取り組むことができました。今回のgPBLでの活動は今までの大学生活の中でも特に貴重な経験になりました。私は3年生の後期から半年間留学に行ってしまうので今年の夏や来年の冬のgPBLには参加できませんが、次は4年生になってからTAとして参加してみたいと思います。



難しいこともたくさんありましたが、貴重な経験になりました。

システム理工学部電子情報システム学科2年
緒方循之介さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： ベトナム・ドンア大学

今回のPBLには、英語力と技術力を向上させるために参加しました。9月には交換留学も控えているため、PBLに参加することで、留学への準備にもつながると考えたためです。

実習期間中は、日本人学生と台湾人学生とベトナム人学生がグループを組み、グループごとに製作するものを決めて実習に取り組みましたが、やはり最大の問題は言葉の壁でした。同じグループの人全員が英語を流暢に話せるわけではなかったため、口頭でのコミュニケーションで苦労した場面も多々ありました。そのため、こうした問題を解決するために、メッセージアプリを使って会話の記録を残すなどの工夫を行なったところ、技術的な会話なども進めやすくなりました。また、グループ全員で毎日一緒に昼食を取るなどしたことも、円滑なコミュニケーションにつながったと思います。

2週間弱のプログラムでしたが、英語力を向上させたり、自分の弱点を再発見したりと、様々な成果が得られました。今回の経験を活かし、交換留学にもしっかりと臨みたいと思います。



日本とは違った考え方を持つ人たちとの作業で、様々な新しい発見がありました。

システム理工学部 電子情報システム学科 2年
矢島大路さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先：ベトナム・ドンア大学

私は以前、大宮キャンパス開催の韓国の大学とのgPBL、夏に行われていたベトナムでの語学留学・IEP時のArduinoを用いた共同作業などの国際プログラムを経験してきましたが、今回もまた外国人の方と共に活動してみたいと思い、ベトナムで行われたgPBLに参加しました。IEPの時には1週間の共同作業の時間がありましたが、実際は4日ほどC言語の勉強だったので、実際に活動していた時間は、2,3日程度でした。ですが今回のgPBLでは1週間まるまる共同作業の時間がとれたのでとても充実していました。

実際の作業では、システム工学演習の授業で学んだプロジェクトマネジメントの経験がとても役に立ちました。自分たちでどのようなシステムを開発したいのかを提案していく時、最終発表までの限られた期間でどの工程を踏まえて作業を進めていくのか検討する時に、ただ闇雲に進めていくだけでは終われなかったと思います。そういった所では、違う国の人との共同作業も学校でのグループワークもそれほど大差ないと思いました。

このgPBLを終えた後、英語のスピーキング力、プロジェクトでの計画力など様々な力を身につけることができました。はじめの時はコミュニケーションをとることさえ難しかったですが、2日目3日目と作業を進めていく過程で徐々に連携をとることができるようになり、しっかりとベトナム人の学生と一緒に作業を進めていくことができました。私は3年の後期に半年間の留学を控えていますが、このgPBLで得た経験は必ず長期留学の際にも役立つものはたくさんあると思いました。長期留学が終わったらまた別のgPBLなどの国際プログラムに参加してみたいです。